

指導医に聴く

「私が研修医だった頃」

第 2 回 済生会山口総合病院副院長
重富 美智男 先生

と き 平成 29 年 10 月 19 日 (木)

ところ 済生会山口総合病院

[聞き手：常任理事 今村 孝子]



今村常任理事 県医師会報の新コーナー「指導医に聴く『私が研修医だった頃』」の第 2 回目として、済生会山口総合病院副院長の重富美智男 先生にお話を伺いたと思います。本日はご多忙のところ、インタビューの時間をいただきまして誠にありがとうございます。

先生は自治医科大学を昭和 57 年に卒業され、2 年間の山口県立中央病院（現 山口県立総合医療センター）での研修後、町立美和病院（現 岩国市立美和病院）で 3 年間、再度、県立中央病院で麻酔科研修を 1 年間、その後、萩市見島診療所で 2 年間、萩市民病院で 1 年間勤務し、県との奨学金契約期間（9 年間）を終了し、山口大学麻酔科での 1 年間の勤務を経て、平成 4 年 5 月から現在まで済生会山口総合病院麻酔科に勤務されていると伺っております。

まず最初に、自治医科大学の仕組みや特徴、へき地医療マインドについてお聞かせ願います。

重富先生 へき地がたくさんあって医師が少ないということから募集が始まって全国で 108 人、毎年、山口県からは 2～3 人を県内の試験で選抜して、レベルは県によって全然違いますが、みんなへき地の役に立とうという志をもって集まっており、全寮制の大学です。

今村常任理事 在学中、他の医学部とは違う科目や特徴はありましたか。

重富先生 即戦力を早く作るということで、今は他の大学でもされていると思いますが教養は 1 年間だけで、2 年目からは 2～3 年で基礎医学をやって、4 年からはベッドサイドで臨床を教え込まれ、6 年生になると国家試験を落ちたら困るので国家試験対策授業も並行してかなりあったので、長年合格率 100% を保っていたのではないかと思います。

今村常任理事 何か心に残る特徴的な授業とかはありましたか。

重富先生 授業自体は他の大学とそんなに変わらないと思うんですが、毎年、夏になると山口県に帰って来て、1～6 年生までが全員集まって、例えば萩に行ったりとか、県の方が用意してくれているへき地を廻って、先輩が勤務している所でへき地研修をしたり住民の健診のお手伝いをしたりしていました。これは現在でも行っていると思います。

今村常任理事 自治医大生ならではの特徴的なものですね。卒後の研修についてはいかがでしたか。

重富先生 初期研修の研修指定病院は県立中央病院（県中）しかなかったもので、そこで研修してくれということなんです、そのころは教える方も教わる方も何をどうしてよいかわからないということで、1 年目は外科及び内科を 3 か月ずつ、小児科、産婦人科並びに麻酔科を 2 か月ずつ廻りなさいということがルールとして敷かれていました。ただし、そこで何を教えてもらえとか何を教えろとかは決まっておらず、手探りの状態でスタートしました。

2 年目はどこでも好きな所を廻ってよいということだったので、私はたまたま麻酔科を回った時に、麻酔科の先生が病院を移転する時期で、ICU を立ち上げるから、当直の人数がある程度必要ということで、1 年手伝ってくれないかという話があり、ちょうど興味があったので麻酔と ICU をやるために、2 年目はずっとそこにへばり付いていました。

今村常任理事 ICU はその時にできたのですね。

重富先生 1 年目の正月くらいから始まるということだったと思います。

今村常任理事 立ち上げに関与されたのですね。

重富先生 私自身はあまり知識がなかったもので、看護師さん達と勉強会をしながら、また、上の先生たちに教えてもらいながら患者の第 1 号が新しい病院に入るまで万全の態勢を取ろうということで 3 か月ぐらい、予備期間がありました。

今村常任理事 なかなか経験できない体験をされたわけですね。ところで当直は内科系当直ですか。

重富先生 そうだったと思います。内科系の当直を月 4 回ぐらいやって、ICU の当直も毎週 1 回はあるので、月に 7～8 回ぐらいあったと思います。

今村常任理事 楽しかったですか、それともヘトヘトでしたか。

重富先生 疲れたというよりも、心地よい疲労感ではないですが、急患を診ていると、いろいろな患者がきて、さまざまな科の先生にお世話になり、たくさんの症例を診ることができました。ICU は重症患者が来るので初めてのことばかりでしたが、上級の先生が出て来て、フォローしてくださったので実力はかなりついたと思います。

今村常任理事 ICU と当直のおかげで、へき地に行く準備もできたという感じですね。

重富先生 その時に、いろいろな科の先生と知りあいになり、へき地に行っても、困った時は直接電話をして指示を仰いだり等を簡単に受けていただいて凄く助かりました。

今村常任理事 先生の 2 年間の研修のことをお聴きしていましたら、今のスーパーローテによく似ていて、先駆けのように感じましたが、今の臨床研修制度について、どのように思われますか。

重富先生 当院は最初は手探りの状態でスタートしましたが、今は到達目標、例えば消化器内科だったら胃カメラを何例させてできるようにする等、当院の研修医は一つの科を一人ずつ廻るので、5～6 人来ても同じレベルに達するように、麻酔科であれば挿管を 1 か月で 60～70 絶対させるとか、そういう達成目的を作ってやっているの、質が保証してあげられるというのが今の研修だと思います。例えば内科でも今は 4 つに分かれており、必ず全部廻れるので、私の時代もそうだったらよかったのと思っています。

内科や外科が 3 か月というのは、少し短いですよね。もっとやりたいことがあったけれど、さわりだけを教えてもらったという感じがします。小児科と産婦人科は比較的時間が長かったので、やりたいことをやらせてもらい、特に産婦人科については私はお産に興味があったので、子宮頸管 8 割開大時には助産師に電話をしてもらって、当時は車を持っていなかったのに汗を垂らしながら家から病院まで 2km 弱を走って行って、お産を覚えてもらってました。取り上げられる際に必

ず先生が来られるわけですが、その先生よりも早く行って、助産師の指導を受けながらやっていると「会陰切開までやってみたら」と言ってくださり、20 例ぐらい、取り上げさせてもらいました。

今村常任理事 へき地でそれは役に立ちましたか。

重富先生 町立美和病院に居た時にお産をやっていて助産師が一人居たんですが、岩国の国立病院から産婦人科医が上がりて来るのに約 1 時間かかり、手術があると、お産に間に合わないということがあるので、以前、たまたま私が助産師さんに付いてて会陰切開をしている姿を先生が見られて、それ以降も取り上げさせてもらいました。高リスクの患者さんは最初から岩国の病院に行かれるんですが、経産婦は町内で産むようになっていたので、少しは役に立ったかなと思っています。

今村常任理事 そのようなことは、なかなか自分で意欲的に取り組まない限り、経験できませんね。他に何か心に残っていることはありますか。

重富先生 県中の旧病院では重症患者が救急車で来られると、麻酔科のトップの先生が官舎に住んでいたため、その都度呼ばれるんですが、その時に私にも電話をかけてこられて「来るか」と言ってくださるので走って行ってました。こちらがそのような態度を示すことで、先生方も一生懸命教えてくださいました。医師になって 2 か月目ぐらいの時に、トラックにはねられた即死状態の子供が搬送されてきて、全身に激しい外傷があり、当時の形成外科の伊藤部長先生が当直で来られていて、「これだけ傷があるので縫ってきれいにしなさいよ」と言われて、隣で縫い方を丁寧に教えてもらい、1 時間近くかけてきれいに縫合するように指導してもらいました。こんな経験は滅多にできないと思いますし、自分の宝と思っています。

今村常任理事 ヤル気があれば、いろいろなチャンスがありますよね。

重富先生 求めれば何でもやらせてもらえたということでしょうか。今はレールが敷かれているので、それに乗っていれば 2 年間、上手くやっているとと思いますが、私たちの時は自分から貪欲に態度に示さないと、例えば他の先生の仕事・準備等をしておくと、「じゃあこれも教えてあげようか」ということでプラスアルファのことも教えていただけたりました。

今村常任理事 楽しかった思い出はいかがですか。

重富先生 麻酔科の先生は遊びが大好きだったので、すぐにお古のゴルフクラブをくださり、3 回ぐらい練習に行くと、次はゴルフ場に連れて行かれ、そのまま夜は雀荘に連れて行かれ、2 晩、そこから仕事に行ったこともあります。夜は外食ばかりで、病院の前にあった喫茶店で、毎晩、手術が終わったら医師や看護師たちと一緒にご飯を食べました。だから酒のつまみと、焼きそばしか食べていなかった気がします。

今村常任理事 先生はなぜ麻酔科を選ばれたのでしょうか。

重富先生 一番最初に廻ったのが麻酔科だったんですが、私は器用ではなかったので腰椎麻酔するのも 8~9 回連続で入らなかったこともあったりしたのですが、1 回入り出すと二度と失敗しないぐらいにまでなりました。技術的な部分だけでなく、同期 4 人で一緒に自治医大から帰って来たんですが、せめて救急で活かせるテクニックぐらいは身に付けたいとの思いがあって、麻酔というよりは救急・集中治療とかいうことに惹かれて「こういう感じでいきたいな」と思いました。麻酔科のトップの先生が救急に頼られて毎回呼ばれているのをみて、麻酔科になれば役に立つことができると思い、興味を持ちました。

今みたいに当直が外科系・内科系に分かれていて 4 人ぐらい居るということではなく、当時は 1 人ぐらいしか居ませんでした。できなければ、すぐに助けを呼べというようなかんじでした。

今村常任理事 研修医時代にやり残したこと、やりたかったことはありますか。

重富先生 私は冒頭に述べた科しか廻っていないので脳外科、整形外科などの先生とも知り合うわけですが、CT等の読影力もないので、これらの科についてももしっかり教えてもらっておけばよかったなと思います。美和病院や萩市民病院は、医師は院長と自分しか居らず、実質一人で行っているのとあまり変わらないようなものでしたから。

今村常任理事 もう少し研修期間が長かったらと思われたことはありますか。

重富先生 もう 1 年あったら、脳外科を廻り、患者の診方を勉強したりしたかったなと思います。今は例えば美和病院だと自治医大の卒業生が 4 人居り、そこで教え込まれるということがあるので、3 年目は総合診療の研修が受けられると思えば十分かなと思ひ、むしろ今の方が凄く良いなと思います。

今村常任理事 他に何か思い出深いことがありますか。

重富先生 麻酔科は他の病院に行っても年に 2 回ぐらい皆でゴルフ場に集まって、夜は泊まってというようなことがあって、全然知らない人たちが集まり、輪が広がっていき、交流が持てました。「将来的に本当にやりたければ集中治療でも麻酔でもやってみるか」と言ってくれた先生が居て、山大出身ではないのに教授も含めて仲間が、最初から山大の研究生のような扱いをしてくれていたことで凄くスムーズに義務が明けてからの道を選ぶことができました。

今村常任理事 良い出会いがあったんですね。

重富先生 ラッキーでした。他の人たちをみても、自分が憧れる先生に出会っても、その先生が遠くに行ってしまったら自分の行き場がなくなり、そのままへき地に残らざるを得なかったというよう

なこともありましたので。もともとへき地医療を志して自治医大に行ったわけなので、私なんかは麻酔に逃げたと思われるのかもしれませんが、今でもドクターカーに週 2 回乗ってますし、地域連携でも一切、断らないようにしてやっていますので、これも一つのへき地医療の延長かなと思っています。

今村常任理事 先生の意気込みと自治医大の卒業生としての責務を感じます。

重富先生 自治医大の卒業生は大学に戻って教授を目指した人、私のように県に残って麻酔科でありながら病院で勤務する人などさまざまですが、そうしておかないと後輩の選択肢がなくなるかなという思いがありますし、みんな、自分が悩んだ時に選択肢の中にどこかの科に行きたいということであれば、口を利いてあげないといけないと思っています。

今村常任理事 確かにいろいろなロールモデルがあることはとても大切ですね。次に山口県の地域医療について、お話し願いますか。

重富先生 私は出身が萩なんですが、山陰と山陽の格差が凄いです。山陰は怖いほど広いですが、麻酔科医が一人もいません。当院も麻酔科の医師が増えたので、平成 29 年 4 月までは長門に毎週、私ともう一人の者が交互に麻酔をかけに行っていました。その前は萩市民病院に金曜日の午前中に当院で麻酔をかけて、整形の麻酔をかけに 13 時ぐらいから行って 22 時ぐらいまでかけたりしていました。あちらに麻酔科医が居ないことや、いろいろな科がないことは住民にとって凄く不便だと思います。今はヘリコプターがあるので結構近くにはなりましたが、夜に急患が出たら大変なことになりますので山陰側を充実させてあげたいなと思ひ、私自身、当院を退職したら仲間を連れて少しでも支えられればと思っています。

今村常任理事 医師会や県としては、どうしたら格差が埋められると思われませんか。

重富先生 まず数が揃っていないといけないと思いますし、仮に医局にたくさん麻酔科医が増えたとしても、行きたいという人が居なければ仕方ないので、行きたくなるような人を一人配置しておけば、一年ぐらい行ってみようかなというようになるのではないかと思います。私のもとで麻酔科になった研修医が次で6人目になるのですが、当院へ帰って来てもらいたくても、人数が足りているのでなかなか一緒に働けないのですが、自分がそういった所に行っていれば「大変でしょう。手伝いましょうか?」と言ってくれる子が出てくるのではないかとということがちょっとした夢です。自分が何歳までできるかはわかりませんが。

今村常任理事 素晴らしいお考えですね。ところで今の研修医気質みたいなものはありますか。

重富先生 今の子は本当に賢くて、よく勉強します。少しずる賢さもありませんが、教えたことは飲み込みも早いし、プレゼンもそつなくこなしています。私は研修医時代に前の晩に大酒を飲まされて、翌日の昼まで寝ていて、みんなから心配され先生に謝ったこともありますが、今の研修医はそういったことは絶対ないです。ただ、夜にごちそうするからと食事に誘っても、「プライベートは別なので」と言って、付いて来ない人も中にはいますね。

今村常任理事 研修医の先生に何かメッセージがありますか。

重富先生 せっかく当院に来てもらうからには、最高のテクニックなり知識を与えてあげられるよう頑張っておりますが、ただ技術・知識だけではなく、患者に接する態度や、私たちが診察して不安がっている人たちや家族をどのようにして和ませているか等、内科だったら看取りを含めて、どのように接しているかを将来の模範にしてもらえたらと思います、当院の医師には「研修医のみんなが憧れるような後姿を見せてやってほしい」ということを常々言っています。

今村常任理事 先生ご自身が憧れる、尊敬される先生に出会われたこともあり、そういう出会いを後輩にも持たせたいという思い、また、研修医の「憧れ」になれるような指導医になってほしいという思いがとてもよく分かります。

重富先生 私自身はすごく良い先生に出会ったので、その恩返しではないですが、私を感じたようなものを私自身に感じてくれればと思います、裏表がないように接しているつもりです。そして嫌なこともあるけれども、それ以上に一生懸命にやっていたら報われるし、理解してもらえることもたくさんあることを伝えていきたいです。

今村常任理事 研修の2年間は、医師のスタートとして、臨床医としての姿を学ぶ一番大切な時期なので、憧れてもらえるような人に上級医にはなってほしいということですね。

重富先生 そうなることで、自分たちが上になった時に、今度は下にも示してあげられると思うので。よく、鳥が卵から孵って最初に見たものを親とあって付いていくと言いますが、研修医はまだ医者のお卵が孵ったばかりなので、最初に見た親になってあげないといけないと思っています。

今村常任理事 本日は、本当に興味深いお話、心温まるお話をお聞かせいただきまして、誠にありがとうございました。先生の今後ますますのご活躍とご健勝を祈念しております。

